

石油化学工業協会 JPCA（略称：石化協（せっかきょう））

「石化協ニュースレター」〈第8号〉 2014年7月

◆ 目次

- 1 はじめに
- 2 石化協定時総会開催
- 3 浅野石化協新会長就任挨拶
- 4 ネーミング公募キャンペーンの審査結果について
- 5 アジア石油化学工業会議(APIC2014)並びに第5回日韓 APIC 会合
開催報告
- 6 産業保安に関する行動計画のフォローアップについて
- 7 編集後記

東日本大震災により被災されました皆さまには心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

1 はじめに

暑中お見舞い申し上げます。

関係者の皆さまにおかれましては、当業界を含めた化学工業界全般への日頃の活動に対するご理解、ご協力、ご支援誠にありがとうございます。石油化学工業協会よりニュースレター第8号を配信させていただきますので宜しくご閲覧の程お願い申し上げます。

2. 石化協定時総会開催

石油化学工業協会は、7月3日、経団連会館にて第76回定時総会を開催し、2年間の任期満了に伴う新たな新正・副会長の就任を決定いたしました。新会長には、旭化成株式会社

の浅野敏雄社長、副会長には、三井化学株式会社の淡輪敏社長、出光興産株式会社の松本佳久副社長、J S R株式会社の小柴満信社長がそれぞれ選任されました。

(浅野新会長の就任ご挨拶を次の項目で掲載しております。)



新正・副会長就任会見（於：経団連会館）



石化協総会終了後のパーティー（於：経団連会館）

3. 浅野石化協新会長就任挨拶



この度、小林前会長の後を受けまして当協会会長に選任されました旭化成社長の浅野でございます。向こう2年間、会長という大役を仰せつかったわけですが、関係者のお力添えをいただきながら、全力を尽くしてまいりたいと考えております。どうぞよろしく願い申し上げます。小林前会長には強いリーダーシップのもと、当協会の運営・発展に多大なるご尽力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

石油化学を取り巻く環境ですが、ここ数年の間で、中東の天然ガスベースのクラッカー
新增設に続き、米国のシェールガス革命、中国の石炭系石化プラント（CTO）の新增設等、

コスト競争力の高い原料使用技術が台頭して来ました。このため、ナフサを原料とする日本の競争力は相対的に不利な状況になって来ていると言われております。しかしながら、見方を変えますと、石油化学事業は、新たにシェールガスや石炭系石化(CTO)が登場してきたことにより、従来のナフサ、天然ガスを含めて石化原料のソースが多様化し、サプライチェーンにも変化をもたらします。また、新興国の人口増大と購買力の向上により、石化製品の需要が高まるということでもあり、今後もこの事業の成長ポテンシャルが十分にあり、事業拡大のチャンスととらえることができます。この変化の激しい環境において、私たちは、日本の石化産業が競争力を高め、アジアの成長市場を掴み、持続的に発展を続け、社会を豊かにしてゆく役割を果たしてゆけるよう、いま以上の努力してまいらねばなりません。

このような認識の下、当協会としては、以下の3つを重点に活動に取り組んでまいりたいと考えております。

まず、第一に「保安・安全の確保」であります。

保安・安全の確保は、製造業の基盤であり、最も重要な課題であると認識しております。今年度は経営トップによるビデオメッセージの作成も計画しており、業界の経営トップが保安・安全の確保に強くコミットしてまいります。同時に、セミナー等を通じて過去に起こったトラブル、事故の原因について共有し、技術レベル、保安・安全への意識レベルを今まで以上に向上させてまいります。

第二は、「事業基盤の環境整備」です。

事業基盤の環境整備として、「イコール フットィング」と「地球環境への対応」の2つに主として取り組みたいと考えております。石化産業の競争力の強化を継続して進めてゆくには、企業活動を律する諸々の税制・規制の面での平準化、いわゆる「イコール フットィング」が重要であると認識しており、引き続きこれに積極的に取り組んでまいります。

次に「地球環境への対応」です。地球温暖化対策として、2014年リマで開催されるCOP20、及び2015年パリで開催されるCOP21に向けての動きに対し、経済産業省・日本化学工業協会等と連携して取り組み、石化産業としての地球環境への役割を果たしてまいります。

そして、第三は、コミュニケーションです。

シェールガス革命等で、世界の石化産業の地図が書き換えられようとしている中、グロ

ーバル化の波は、製造拠点やマーケットにとどまらず、研究開発や技術開発等、高度な領域にまでも進んできております。当協会は、このグローバル化に対しても国内外の関係先とのコミュニケーションを通じて、環境変化の一層の把握に努めます。そして、日本の石化産業が国際競争力を高め、持続的成長を進めてゆくための議論を深めてまいりたいと考えております。また、石油化学に替わる新たなネーミングとして選ばれた「循環炭素化学」について普及活動を進めてまいります。石油化学産業への理解度の向上、イメージの向上につとめ、皆様に石化産業を魅力的な産業であると感じていただき、持続的に発展してゆけるよう、努力してまいりたいと考えております。

これら、 「保安・安全の確保」
「事業基盤の環境整備」
そして、 「コミュニケーション」の推進

この3つを念頭におき、取り組んでまいります。

最後になりましたが、淡輪副会長、松本副会長、小柴副会長をはじめ、会員各社、協会事務局職員の皆様方と力をあわせて努力してまいりますので、ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

以上、就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

以 上

4. ネーミング公募キャンペーンの審査結果について

(1) ネーミング公募キャンペーンの結果と今後の取り組み

近年の石油化学業界の様々な新しい取り組みを踏まえて、「石油化学」という言葉に代わる“新しい化学”にふさわしいネーミングを昨年12月10日～2月末日までの期間で募集しました。応募総数は5,575件あり、3月20日に開催した審査委員会において授賞作品が決定され、最優秀賞は「循環炭素化学」となりました。応募総数は当初予想を大きく上回る膨大な量であったことや、応募者の年齢層も多岐に亘ったこと等から、石化業界の認知度の向上、イメージアップ、人材確保に繋がったものと考えられます。

今後の取り組みとしては、石化業界の更なる認知度、イメージアップ等の向上に資するため、広報活動の一環として「循環炭素化学」の活用方法等を検討していくこととし

ます。(審査結果の詳細、審査委員名は別途記載。)

(2) 授賞式等の開催結果について

今般のキャンペーンにあたり、ご協力頂いた各方面の皆様方への御礼も含め、授賞式・記念講演会・懇親パーティーを以下により開催しました。

・日 時：平成26年4月17日(木) 12時～14時過ぎ

・場 所：如水会館(東京都千代田区一ツ橋2-1-1)

・内 容：

① 授賞式：12時～12時30分

② 基調講演：12時30分～13時

橋川武郎先生(本キャンペーン審査委員長。一橋大学大学院教授)

③ 懇親パーティー：13時15分～14時過ぎまで

当日の参加者は、会員会社、マスコミ、関係団体等約130名、また、受賞者は、最優秀3名のうち1名、入賞7名のうち4名の方々に全国各地から駆けつけて頂き、授賞式以下懇親パーティーまで出席され、非常に盛り上がった式典となりました。

[別記]

I. 授賞作品

◎最優秀賞：『循環炭素化学』

応募者3名：宮城県24才女性、神奈川県26才女性、大阪府28才男性

○入賞(5作品)

「カラフルケミストリー」 応募者1名：三重県34才女性

「くらし化学」 応募者2名：神奈川県16才女性、神奈川県16才女性

「生活創造ケミストリー」 応募者1名：静岡県40才女性

「つながる化学」 応募者2名：千葉県45才男性、愛知県26才女性

「みらい資源化学」 応募者1名：岡山県24才男性

II. 応募状況

1. 応募作品総数 : 5, 575件
2. 20歳代及び30歳代で全体の35%程度を占め、応募者は7歳～91歳まで、幅広い年齢層となっています。
また、学校単位（教室単位など）で取り組んで頂いた学校も、小学校1、中学校1、高等学校6、専門学校1となっています。

○審査委員：（9名。敬称略、役職名は当時、石化協以外は五十音順。）

橘川 武郎(審査委員長)：一橋大学大学院教授
志田 富雄：日本経済新聞社 編集局商品部編集委員 兼 論説委員
田中 恭代：(株)旭化成アビリティィー社長
谷 明人：経済産業省大臣官房審議官
鍋山 徹：一般社団法人 日本経済研究所専務理事
廣井 卓思：東京大学大学院
小林 喜光：石油化学工業協会 会長
藤原 健嗣：石油化学工業協会 副会長
藤井 シュン：石油化学工業協会 副会長



受賞者と審査委員の皆様



授賞式・記念講演会

5. アジア石油化学工業協会 (APIC2014) 並びに第 5 回日韓 APIC 会合開催報告

アジア石油化学工業会議 (APIC2014) は、タイ石油化学工業協会 (Petrochemical Industry Club, The Federation of Thai Industries ; FTIPC) が主催協会となり、“Transformation - A Map Redrawn- ” をテーマに、シェールガス、CTO (Coal to Olefin) など原料転換の急速な動きがある中、今後の石油化学産業の変革に焦点をあてたイベントとして5月15日 (木) - 16日 (金) タイのパタヤの Pattaya Exhibition and Convention Hall (PEACH) で開催され盛況裏に終了しました。

本会議は、当初バンコクでの開催予定であったものが、政情不安から急遽、会場をパタヤに移したにもかかわらず、結果として総参加者数は、世界 40 カ国以上から 1,353 名と、ほぼ例年並みの参加者数となりました。

15日はケミカルマーケティングセミナーを開催、翌16日は総合会議、運営委員会、製品別分科会が行われました。

総合会議では、主催のタイ石油化学工業協会の Ekarat Thongtawach 会長の挨拶に続き、日本の石化協を代表して小林会長 (当時) が挨拶を行いました。小林会長からは、中東、北米などのガスを中心とした安価な原料の出現で、高付加価値製品へのシフトが促進される、21世紀は炭素を活用した、省資源と地球環境に配慮した持続可能な環境システムを創設すべきとのコメントがあり、さらにネーミング公募キャンペーンで“循環炭素化学”が受賞した旨が付け加えられました。

APIC7協会代表による挨拶の後は、Dr. Paillin Chuchottawon (President and CEO PTT Public Company Limited) と Mr. Peter Sykes (President of Asia Pacific The Dow Chemical Company) の二人による基調講演が行われましたが、両氏ともガスを中心とした新しい原料転換が進む中、高付加価値、市場重視に向けて研究開発に重点を置くべきことを主張していました。

運営委員会では、日本の石化協から今後の APIC の活性化に向けた提案があり、他の6協会の上承を得ました。また次回の APIC 2015 を Korea Petrochemical Industry Association (KPIA) の主催で、韓国のソウルで開催することを決定、当日の Farewell Party の場で公表されました。

製品別分科会では、各国および地域からの参加者を得て、コンサルタント、調査会社を中心に各製品のトピックスが協議されました。



APIC 2014 フェアウェルパーティーに於ける7協会代表

(第5回日韓 APIC 会合)

APIC 開催期間中に開催される日韓両協会の交流会である第5回日韓 APIC 会合は、両協会会長挨拶、日韓の経済・石化の現状と今後の展望についての双方のプレゼンテーションの後、フリーディスカッションが行われました。

今回の両協会トップ会合では、今後の日本のエチレンセンター、中国経済の減速と石化の状況、Dow の上海での研究開発センター建設、グローバル人材の活用など、広範囲にわたる活発な意見交換がなされ、次回は APIC 2015 に合わせて来年5月に韓国・ソウルに於いて第6回日韓 APIC 会合を開催することが確認されました。

6. 産業保安に関する行動計画のフォローアップについて

経済産業省 産業構造審議会 保安分科会報告書（2013年3月公布）の提言を受けて、当協会において産業保安に関する行動計画を策定し、2013年7月に公表しました。

本行動計画は、年度末に取り組み実績を確認し、必要に応じて見直すことにしており、この度、2014年3月から5月にかけて、実績まとめ及び見直しを行いました。

実績を取りまとめるにあたって、協会活動実績のまとめの他に会員企業が実施する取り

組みガイドラインの実施状況について、会員各社に実績確認アンケートを行いました。更に、本実績取りまとめ及び災害防止対策検討関係省庁連絡会議報告書（2014年5月公布）の内容等を踏まえ、2014年度の行動計画として見直しを行い、当協会ホームページに本年6月に公表しました。本年度も本行動計画に基づき、より一層の保安・安全の推進を行ってまいります。

なお、本行動計画は、2014年7月に総務省消防庁、厚生労働省、経済産業省が共同で開設した「石油コンビナート等災害防止3省連絡会議3省共同運営サイト」にも掲載されました。

本行動計画の全文については、当協会ホームページ「環境安全への取り組み」欄に掲載しております。

7. 編集後記

私事ですが、6月に会員会社からの出向で事務局に入りました。早々に総会という大イベントがあり、さらに今年は会長交代という2年に一度の節目に当たりました。新会長会社の旭化成で思い出したのは、むかし「化」の字をカタカナ読みして「イヒ！」という広告があったことです。製品や会社を直接宣伝するものではありませんが、奇抜にして単純明快、理屈抜きに印象に残りました。石油化学工業というと難しく堅苦しい印象ですが、こんな遊び心もあっていいのではないかと思います。

遊び心でもう一題。石化協には広報に命を懸けている先輩がおり、私は密かに映画「千と千尋の神隠し」になぞらえて「百と千尋の紙業師（かみわざし）」と呼ばせてもらっています。（本件、お問合せは石化協 広報：03-3297-2019 まで）

<石化協 事務局 T.H>

ニュースレターに関するご意見・ご要望はこちらまで
アドレス：inquiries_hp@jpca.or.jp

配信中止・登録内容の変更はこちらまで
アドレス：inquiries_hp@jpca.or.jp

石油化学工業協会 総務部

〒104-0033 東京都中央区新川 1-4-1 住友不動産六甲ビル

TEL. 03-3297-2011

Fax 03-3297-2017

URL：<http://www.jpca.or.jp/>

